

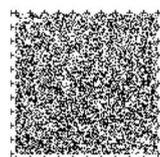


# 令和5年度 久留米市民意識調査報告書概要版

1. 調査目的……変化する市民意識の動向と現在の多様な市民ニーズなどを統計的に把握し、今後の市の施策・事業の検討、推進、評価の基礎データとして活用する。
2. 調査地域……久留米市全域
3. 調査対象者……久留米市に在住する満18歳以上の人
4. 抽出方法……住民基本台帳から、7,000人を無作為に抽出
5. 調査方法……調査票を郵送し、郵送またはインターネットで回収を行う。
6. 調査期間……令和5年7月27日～8月31日
7. 回収数(率)……3,010票(43.0%)  
内、郵送2,018票、インターネット992票

## 目次

まちづくり政策の重要度と満足度について .....	1
久留米市の住みやすさや愛着度について .....	3
ふだんの生活について .....	3
市の情報発信について .....	4
在宅医療・介護について .....	5
こころの健康について .....	6
障害者福祉について .....	7



# まちづくり政策の重要度と満足度について

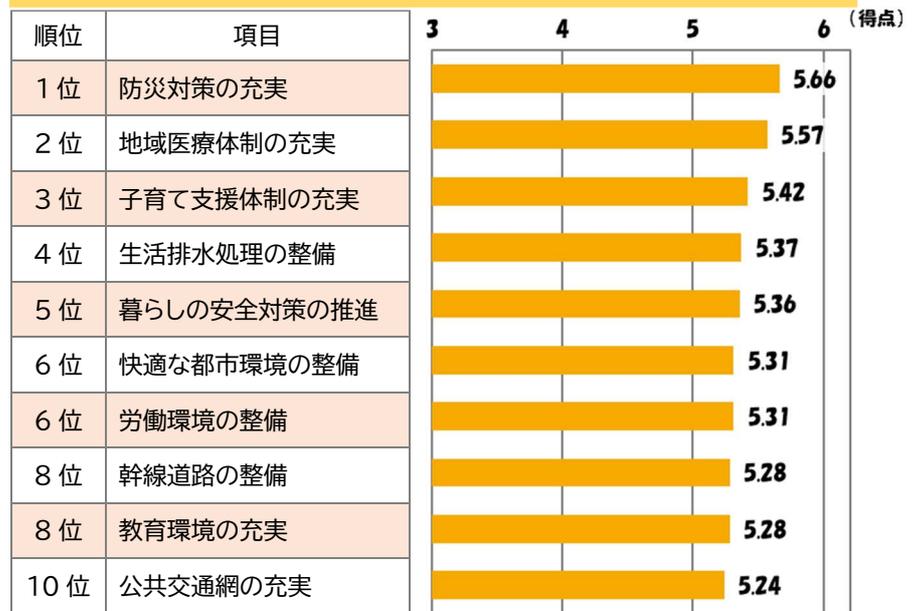
久留米市が現在取り組んでいる33項目のまちづくり政策をあげて、重要度と満足度を尋ねました。

重要度が最も高いのは、「防災対策の充実」で、以下、「地域医療体制の充実」、「子育て支援体制の充実」になっています。

## 【傾向】

40歳～70歳代は「地域医療体制の充実」、18歳～30歳代は「子育て支援体制の充実」が上位となっています。

## 重要度が高い10の取り組み(全体平均:4.92(6点満点)) n=3,010



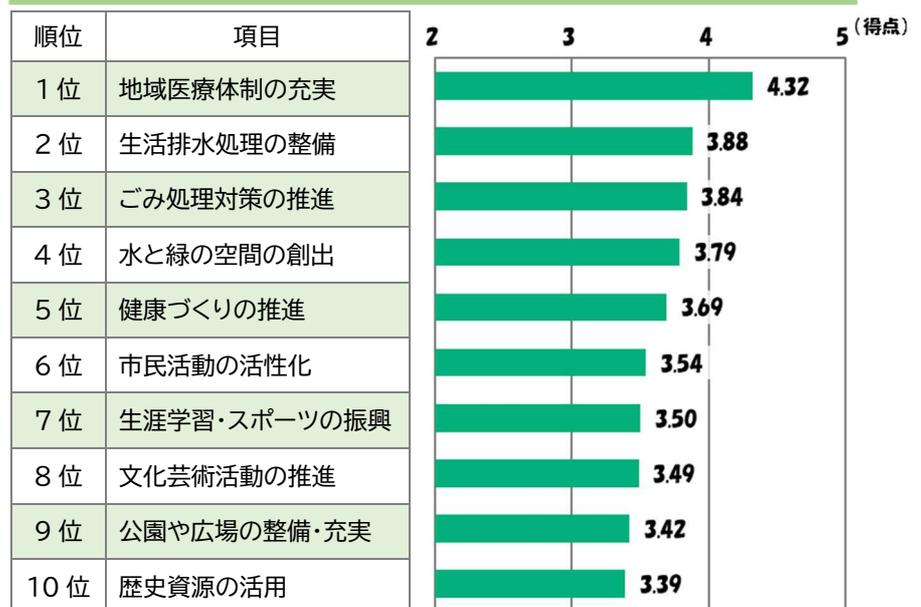
重要度得点・・・「重要」という評価であれば6点、「やや重要」4点、「あまり重要でない」2点、「重要でない」0点とそれぞれ得点化し、4つの評価の回答者数で割った値

満足度が最も高いのは、「地域医療体制の充実」で、以下、「生活排水処理の整備」、「ごみ処理対策の推進」になっています。

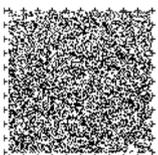
## 【傾向】

すべての年齢層、ブロックで「地域医療体制の充実」は上位となっています。

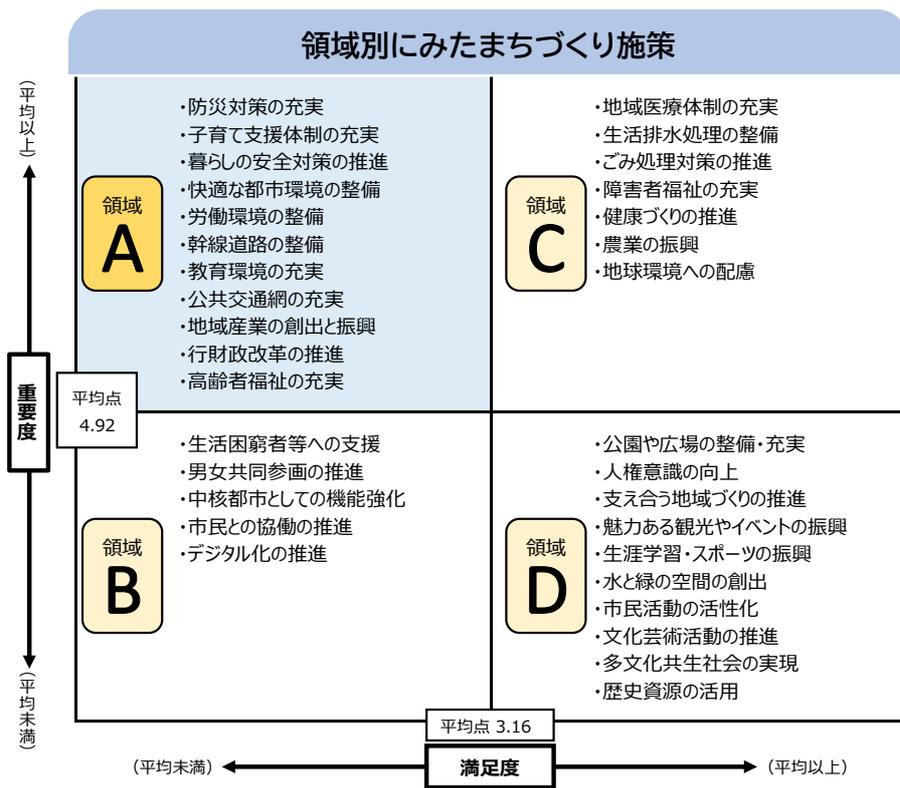
## 満足度が高い10の取り組み(全体平均:3.16(6点満点)) n=3,010



満足度得点・・・「満足」という評価であれば6点、「やや満足」4点、「やや不満」2点、「不満」0点とそれぞれ得点化し、4つの評価の回答者数で割った値



重要得点と満足度得点の平均値を境界として4つの領域に分けています。「重要であるが満足ではない」行政ニーズの高い領域Aの項目には、「防災」「子育て支援」「暮らしの安全」「都市環境」「労働環境」「幹線道路」などの11項目があげられます。



【領域A】	重要度・高	満足度・低	今後改善の優先度が高い（行政的ニーズが高い）。
【領域B】	重要度・低	満足度・低	施策の重要性を理解してもらうとともに満足度をあげていく必要がある。
【領域C】	重要度・高	満足度・高	引き続き取り組みの充実が求められる。
【領域D】	重要度・低	満足度・高	今後、施策の重要性を理解してもらうことが必要である。

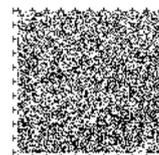
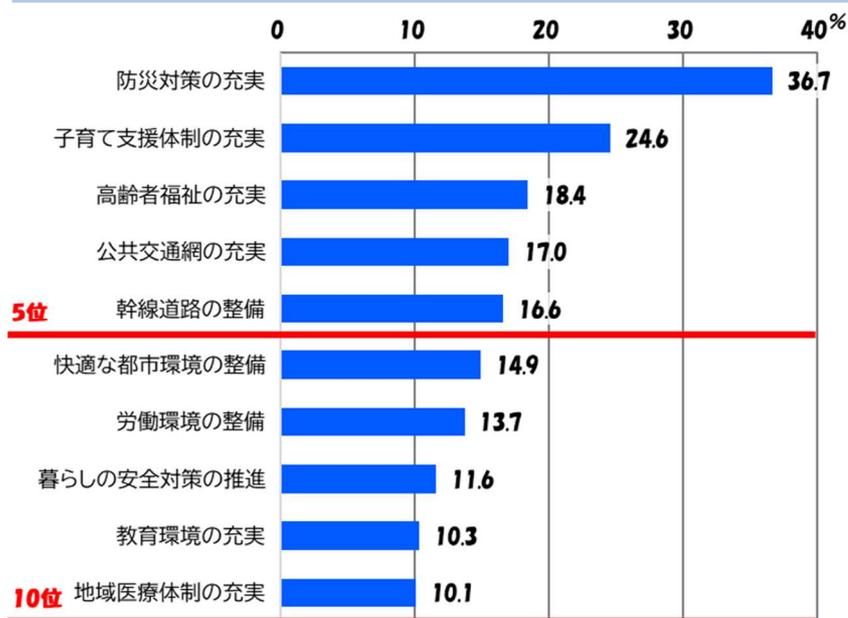
重要度・満足度を聞いた33項目の中から「特に力を入れて欲しいもの」を聞いたところ、「防災対策の充実」が最も多く、以下「子育て支援の充実」「高齢者福祉の充実」が続いています。

#### 【傾向】

すべての年齢層で「防災対策の充実」は上位にあり、30歳代で「労働環境の整備」が高い傾向にあります。

### 特に力を入れて欲しいもの(上位10項目)

【回答は3つまで】n=3,010



# 久留米市の住みやすさや愛着度について

「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」をあわせた『住みやすい』は、令和4年度調査から続いて9割を超えています。

住みやすい

**91.3%**

「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」をあわせた割合。  
(令和4年度調査 93.1%)

愛着がある

**88.0%**

「愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」をあわせた割合。  
(令和4年度調査 87.3%)

住み続けたい

**75.8%**

「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」をあわせた割合。  
(令和4年度調査 82.0%)

## ふだんの生活について

### 【運動・スポーツ活動の状況】

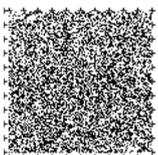
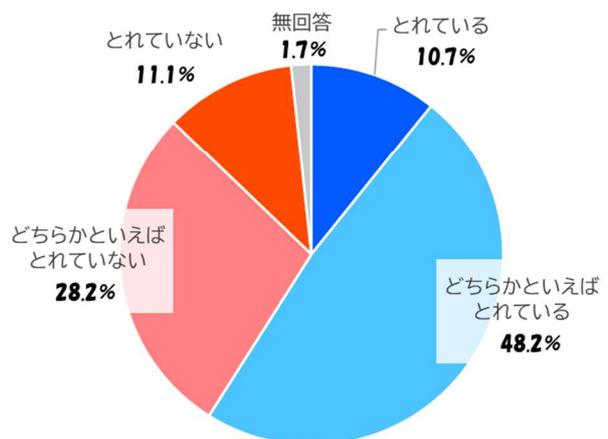
健康づくりのために体を動かしたり、運動する頻度について、「週に2日以上」が34.3%と最も高く、「まったく行っていない」が26.4%となっています。「週に1日以上」は「70歳～74歳」が74.4%と最も高く、次いで「75歳以上」が74.2%。高い年齢層において比較的高い割合となる傾向があります。



### 【自身や周囲の人のワークライフバランス】

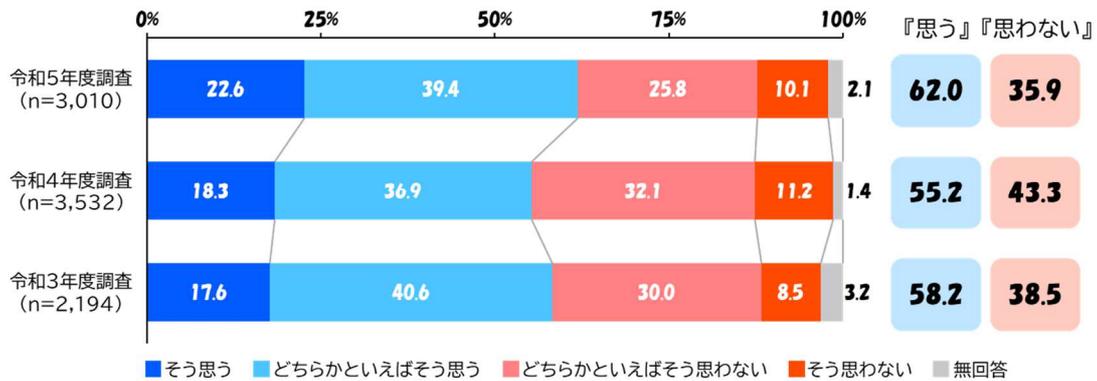
仕事と生活が両立できるワークライフバランスについて、「とれている」と「どちらかといえばとれている」をあわせた『とれている』が、58.9%です。

一方で、「とれていない」と「どちらかといえばとれていない」をあわせた『とれていない』が、39.3%となっています。



## 【人権に対する感覚】

同和問題をはじめとする、さまざまな人権問題の解決に向けて、自分自身の人権に対する感覚を高めたいと思うかについて、「そう思う」22.6%と「どちらかといえばそう思う」39.4%をあわせた『思う』は 62.0%となっています。「そう思う」の割合は増加傾向にあり、令和5年度は、令和3年度調査に比べて 5.0 ポイント高い、22.6%となっています。



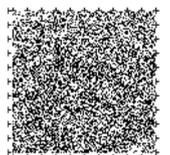
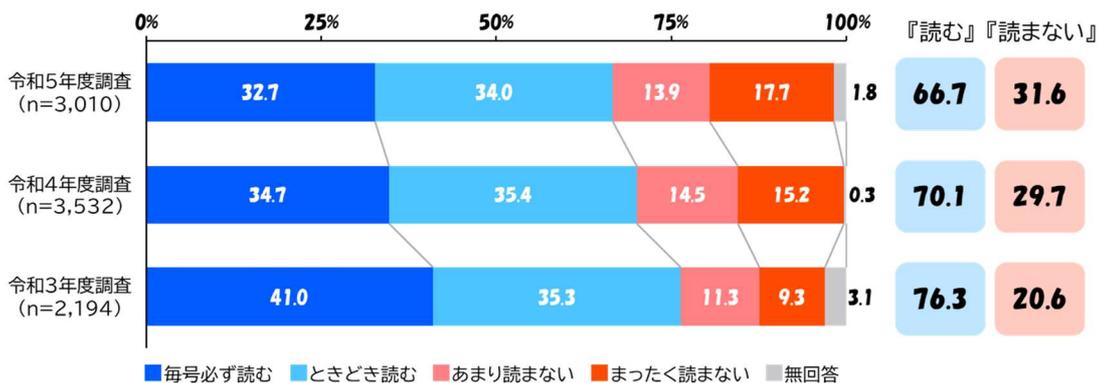
## 市の情報発信について



## 【広報久留米の閲覧状況】

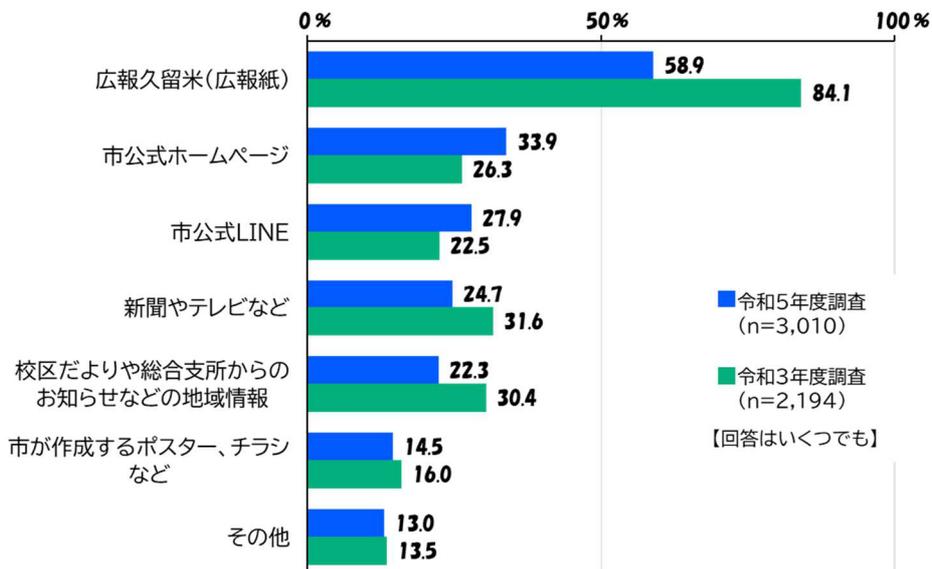
「毎号必ず読む」と「ときどき読む」をあわせた『読む』は、66.7%。一方で、「あまり読まない」と「まったく読まない」をあわせた『読まない』は、31.6%となっています。

令和3年度調査から『読む』と答えた割合は、徐々に減少しています。



## 【市の情報源】

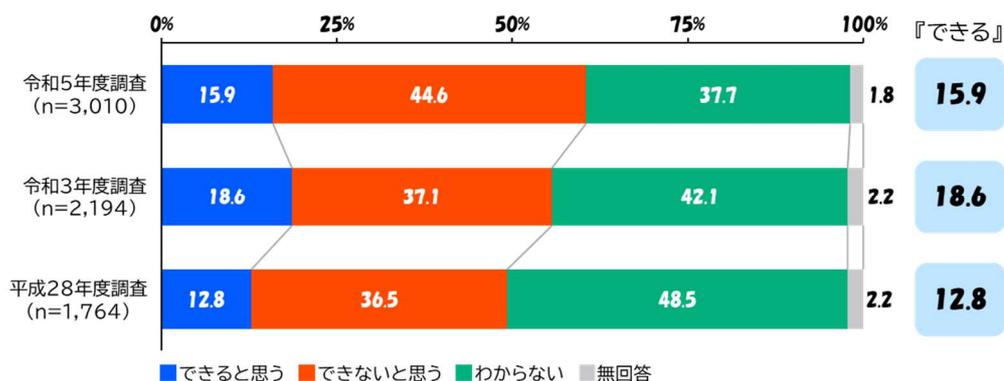
市の情報の入手経路について、「広報久留米(広報紙)」が 58.9%と最も高く、次いで「市公式ホームページ」が 33.9%となっています。令和 3 年度調査と比較すると、「市公式ホームページ」「市公式 LINE」などのインターネットを通じて市の情報を入手している市民が多くなっています。



## 在宅医療・介護に関する意識について

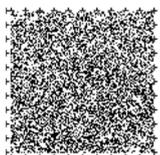
### 【安心して居宅で療養し、最期を迎えることができる】

自分や同居の人が人生の最終段階を迎えた場合に、安心して居宅で療養し、最期を迎えることができるかについて、「できないと思う」の割合が 44.6%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 37.7%、「できると思う」の割合が 15.9%となっています。令和3年度調査と比較して、「できると思う」人の割合が減少し、「できないと思う」の割合が増加しています。



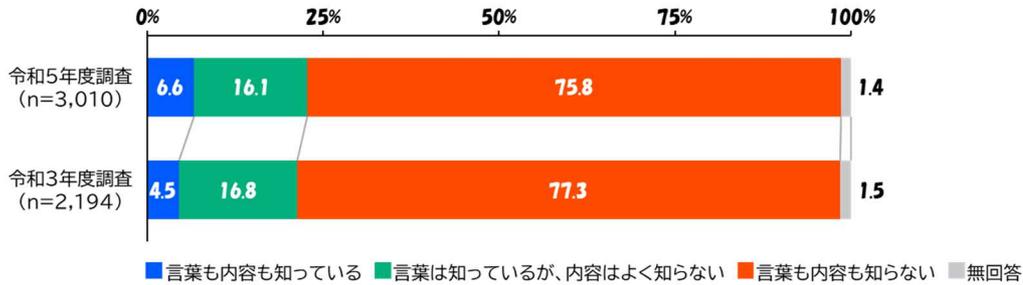
### 【安心して居宅で療養し、最期を迎えることができない・わからないと思う理由】

- 1 介護する家族に負担がかかる 65.3%
- 2 経済的な負担が大きい 46.0%
- 3 症状が急に悪くなったときの対応に不安がある 41.3%



## 【人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)の認知度】

「言葉も内容も知っている」の割合が 6.6%、「言葉は知っているが、内容は知らない」の割合が 16.1%となっています。「言葉も内容も知っている」は、令和3年度調査と比較して 2.1 ポイント増加しています。



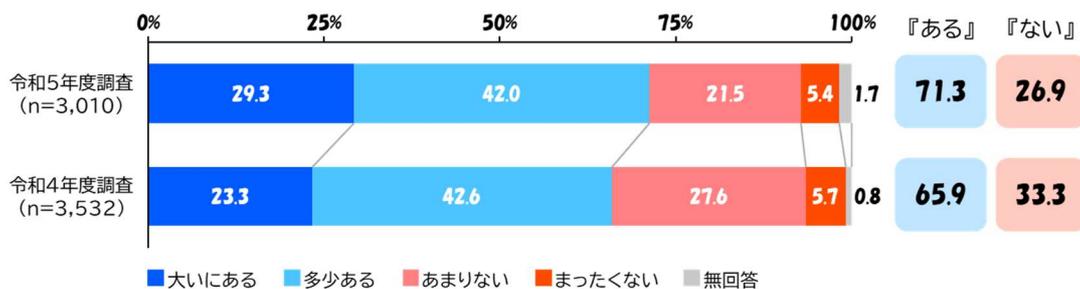
※人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)とは…  
最期まで自分らしく生きるために、人生の最終段階に自分が望む医療やケアについて前もって考え、家族や医療・介護の専門職など信頼できる人と繰り返し話し合うことです。

## こころの健康について

### 【不安や悩み、ストレスの状況】

1か月間での不安悩み、ストレスについて、「大いにある」(29.3%)と「多少ある」(42.0%)をあわせた『ある』は 71.3%となっています。一方で、「まったくない」(5.4%)、「あまりない」(21.5%)をあわせた『ない』は 26.9 %です。

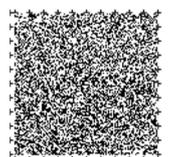
令和4年度調査と比較して、「大いにある」が6.0ポイント増加しています。



### 【不安や悩み、ストレスを抱えた場合の相談先(上位3項目)】

- 1 同居の家族や親族 60.2%
- 2 友人・知人 47.2%
- 3 別居の家族や親族 34.0%

※令和4年度調査においても上位3項目は同じ結果でした。

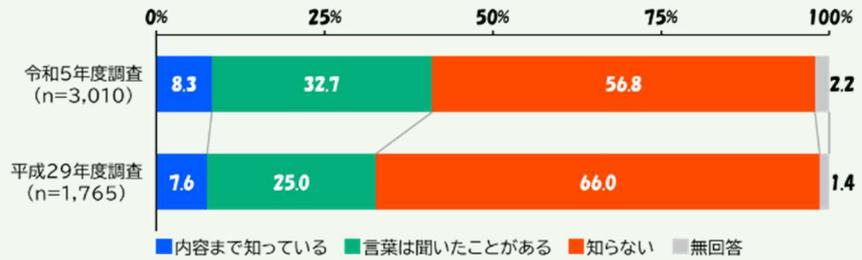


# 障害者福祉について

## 【障害者差別解消法、障害者虐待防止法の認知度について】

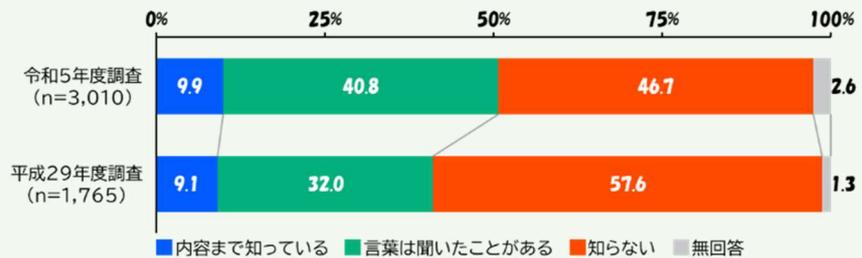
### 【障害者差別解消法】

認知度は上昇傾向にあり、「言葉は聞いたことがある」の割合は、7.7ポイント増加しています。



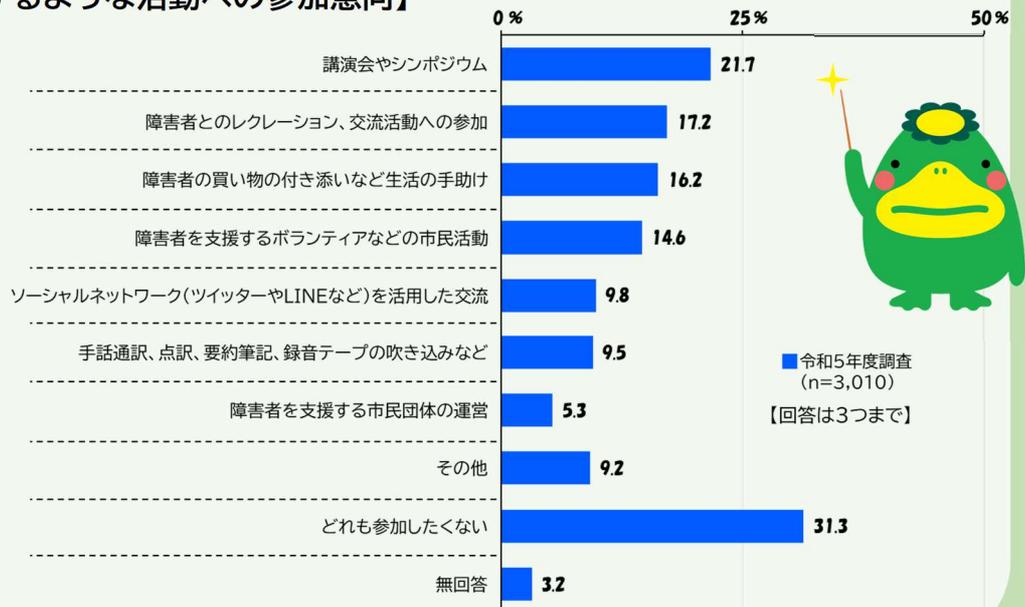
### 【障害者虐待防止法】

認知度は上昇傾向にあり、「言葉は聞いたことがある」の割合は、8.8ポイント増加しています。



## 【障害のある人を支援するような活動への参加意向】

障害のある人を支援する活動について最も参加したい割合が高いのは「講演会やシンポジウム」で21.7%。次いで「障害者とのレクレーション・交流活動への参加」が17.2%となっています。



《発行》 令和6年3月

《お問い合わせ》【編集・発行／調査主体】 久留米市協働推進部広聴・相談課

久留米市城南町 15-3

TEL 0942-30-9015 FAX 0942-30-9711

E-mail sodan@city.kurume.lg.jp

※報告書および概要版は久留米市ホームページに掲載いたします。

<https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1050kurashi/2140soudan/3020kouchou/ishiki.html>

※QRコードは本ページ右下にあります。

